



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第14号（最終）



平成28年10月28日発表

青森県「攻めの農林水産業」推進本部

無袋ふじの収穫は11月4日頃から！
収穫は遅れないように！！
果実疫病対策を万全に！！

I 要約

無袋ふじの収穫は、熟度の進みが平年並みであることから、黒石では11月4日頃から始め、11月15日頃までに終わる。

夏場に降水量が多かった地域では、つる割れの発生が懸念されるので、収穫が遅れないようにする。

収穫の際は、果実に泥が付着しないように注意するなど果実疫病対策に万全を期す。

黒星病の発生が多かった園地では、病原の菌密度が高まっているので、翌年の伝染源となる被害落葉は、積雪前又は消雪後に集めてすき込むなどして処分する。

野ネズミ対策、雪害対策など冬越しの作業を手落ちなく進める。

酸性土壌の改良は、積極的に行う。

II りんご生産情報

1 果実肥大・果実熟度、作業の進み

(1) 果実肥大

10月21日現在、ふじの果実肥大は地域によりバラツキがみられ、平年比98～105%となっている。

果実肥大 (10月21日現在、横径：cm、平年比：%)

地 域	年	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	8.6
	平 年	8.8
	前 年	8.9
	平年比	98
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	8.5
	平 年	8.7
	前 年	8.8
	平年比	98
板柳町高増 (西北地域県民局)	本 年	9.1
	平 年	8.7
	前 年	9.0
	平年比	105
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	8.6
	平 年	8.5
	前 年	8.8
	平年比	101

(2) 果実熟度

10月25日現在、有袋ふじは、平年値と比較して、硬度はやや高く、糖度及びヨード反応指数は同程度、酸度及び着色指数は低い。

無袋ふじは、平年値と比較して、硬度は高く、着色指数はやや高く、糖度は同程度、ヨード反応指数はやや低く、酸度は低い。蜜入りは平年と同程度である。

総合的にみて、熟度の進みは有袋果及び無袋果とも平年並みと見込まれる。

ふじ（有袋）の熟度の進み

(10月25日現在)

地域	年	果重 (g)	着色 指数	硬度 (lbs)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	ヨード 反応	蜜果率 (%)	蜜入り 程 度
黒 石 (りんご研)	本年	322	2.7	16.1	13.4	0.344	2.6	75	0.8
	平年	326	3.7	15.7	13.3	0.392	2.5	68	0.8
	前年	318	3.6	15.3	13.4	0.315	2.3	83	1.1

注) 1 平年：2003～2015年までの13年平均

2 除袋日：9月20日外袋、23日内袋

ふじ（無袋）の熟度の進み

（10月25日調査）

地域	年	果重 (g)	着色 指数	硬度 (lbs)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	ヨード [°] 反応	蜜果率 (%)	蜜入り 程 度
黒 石 (りんご研)	本年	330	3.1	16.1	13.9	0.332	2.3	100	1.3
	平年	337	2.9	15.7	13.8	0.403	2.6	88	1.4
	前年	336	3.0	15.2	14.4	0.347	2.5	100	1.8

注) 1 平年：1996～2015年までの20年平均

2 着色指数：0～5 大きい数値ほど着色良好

3 ヨード反応：0～5 小さい数値ほどでんぷんが少ない

4 蜜入り程度：0～4 大きい数値ほど蜜発生大

(3) 作業の進み（10月26日現在）

ジョナゴールドの収穫は概ね終了し、王林や有袋ふじの収穫が行われている。

2 作業の重点

(1) 収穫

ア 無袋ふじ

収穫始めは、熟度の進みから判断して、黒石では11月4日頃と見込まれる。

収穫が早すぎると貯蔵後にビターピットや貯蔵やけの発生が多くなるので、着色や熟度の進みをみながら、適期に収穫する。

また、収穫が遅くなるとつる割れや蜜褐変、内部褐変の発生が多くなるので、11月15日頃までに終わる。特に本年は、夏場の降水量に地域差がみられ、降水量が多かった地域ではつる割れの発生が懸念されるので、収穫が遅れないようにする。

ふじ（無袋）の収穫時の標準指標

食味	糖度	ヨード反応	蜜入り程度	硬度
4以上	13.5%以上	2以下	2以上	13～16ポンド [°]

(2) 果実疫病（おそ疫病）対策

気象予報によると、今後降雨日が多いと予想されているため、果実疫病の発生が懸念される。やむを得ず降雨時に収穫する場合は、果実に泥が付着しないように注意し、落果や収穫の際に落とした果実は、収穫果に混入させない。また、収穫果は、長く野積みしない。

(3) 山選果の徹底

出荷先の選果基準に基づき分別して出荷する。

(4) 黒星病対策

発生が多かった園地では、病原の菌密度が高まっているので、翌年の伝染源となる被害落葉は、積雪前又は消雪後にかき集めて処分する。わい化栽培では、落葉をレーキで樹冠下に集め、深さ5cmで1回、小型耕うん機ですき込み（中耕）する。

(5) 腐らん病対策

残ったつるから感染することが多いので、つる折れ、つる抜けしないよう丁寧に収穫する。つるが果台に残った場合は、取り除く。

発生が多い園地では、ふじの収穫後できるだけ早い時期に、ベフラン液剤25の1,000倍、トップジンM水和剤1,000倍、ベンレート水和剤2,000倍のいずれかを散布する。

(6) モモシンクイガ被害果の除去

モモシンクイガによる被害果を流通させないために、収穫した果実は、選果時に徹底して選別する。被害果は見つけ次第、7日以上の水漬けなど適切に処置をする。

(7) 果実の樹上凍結対策

ア 樹上凍結した果実は、樹上で自然解凍した後に速やかに収穫する。

イ 凍結した果実は凍結していない果実と区別して流通させる。

(8) 風害防止対策

強風被害に備え、防風網やわい性台樹の結束などを再度点検し、補強や取り替えを行う。また、幹や主枝などに空洞が生じている樹や、腐らん病の被害等を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は、倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

(9) 野ネズミ対策

効果の高い時期は積雪前と融雪後である。

野ネズミの食害防止法には、回避、忌避などの野ネズミを殺さないで被害を避ける「間接的方法」と、殺そ剤など使って野ネズミの密度を減らす「直接的方法」がある。基本的には両者を併用した対策が望ましい。

苗木や若木、わい性台樹は、野ネズミの被害を特に受けやすいので防止対策を徹底する。

忌避剤及び殺そ剤の適用場所などについては、使用する薬剤の使用基準を遵守する。
--

ア 被害の回避

- (ア) 園地を清掃し、果実など餌となるものを排除する。
- (イ) 幹の周囲を耕起し、野ネズミの巣を壊す又は巣作りを防ぐ。
- (ウ) 幹に地上1 mくらいの高さまで金網や合成樹脂のプロテクター、肥料等の空袋など防護用の被覆資材を巻く。
- (エ) 忌避剤による防止
 - ① 樹幹への処理（アンレス、キヒゲン）
 - ② 樹冠下への処理（フジワン粒剤、ネマモール粒剤30）
- (オ) 雪の踏み固め及び枝の掘上げ
 - 2月以降、数回幹の回りの雪を踏み固める。雪中に埋まった枝は掘上げておく。

イ 駆除

- (ア) ワナなどの利用
 - 金網製の生け捕りワナ、バネの力で捕らえる弾きワナ、粘着シートなどを利用する。
- (イ) 殺そ剤の利用
 - 園地の隣接する農家同士が共同で広範囲に渡って実施すると効果は高まる。

(10) 雪害対策

ア 根雪前の対策

【苗木・幼木】

- ・主幹や枝を紐などで結束、特に主幹延長上の新梢も支柱に結束する。
- ・雪の沈降力で紐がずれて落ちないように、きつく結束する。

【普通台樹】

- ・雪害を受けそうな枝に支柱を入れるとともに、不要な枝を大枝単位に剪去する。
- ・切り口の凍害を防ぐために、大枝の場合基部を30cmくらい残し、翌春に切り直す。
- ・樹上に雪が積もりにくくなるように、徒長枝は剪去し、切り口に塗布剤を塗る。
- ・裂開の生じている樹は、カスガイやボルトで補強する。

【わい性台樹】

- ・枝の中央部からやや先を枝先が上向きになる程度まで吊り上げる。
- ・不要な下枝などは剪去する。

イ 積雪期間中の対策

【普通台樹】

- ・冠雪による被害防止のため、雪を降ろす。
- ・雪中の枝先は、雪が新しいうちに抜き上げる。

- ・融雪期に入ったら随時見回り、枝を引き上げる。
- ・雪の沈降によって裂開及び折損しそうな枝で不要なものは、早めに剪去する。

【おい性台樹】

- ・枝の掘上げを行う。
- ・下枝部分の雪を踏み固める。

【融雪促進剤の利用】

- ・事前に融雪促進剤を園地に運搬しておく。
- ・2月上旬以降数回にわたり、晴天が数日続く日を選んで融雪促進剤を散布する。

(11) 酸性土壌の改良

酸性土壌を改良する場合は、土壌分析結果に基づき、収穫作業終了後に改良資材を必要量施用する。なお、土壌分析の依頼はJA全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJA等で受け付けている。

3 一般作業

- (1) 堆肥づくり (2) 園地清掃

園地を見回るなど、りんごの盗難に注意しましょう！

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合、ラベル等の記載事項を読み、それぞれの農薬に定められている使用回数、使用時期、使用濃度を厳守し、使用状況を記帳する。使用回数については、含まれる成分によって制限されるので、同一成分が含まれる剤の総使用回数を守る。また、使用者の責任で最新の「農薬登録情報」を確認する。

農薬の使用前には、防除器具が洗浄されているかを確認するとともに、使用後は、十分洗浄する。

なお、薬剤の年間使用回数は、収穫後から翌年の収穫までの1年間に使用できる回数である。

《《 お知らせ 》》

県予察ほの「モモシンクイガの発生情報」、「りんご黒星病、斑点落葉病の発生推移」は、アップルネット (<http://www.applenet.jp/>) の「アップル農場、病虫害情報、りんご・特産果樹の病虫害発生・防除情報」で提供しています。

また、「アップル農場・りんご・生育速報」には「ふじ」の熟度が掲載されています。ご利用ください。

農業機械事故が多発しています！農作業安全を心がけましょう！

地域ぐるみで放任園の発生防止と解消に努めましょう！

「平成28年産りんごの生産概況」は11月下旬に発行予定

連絡先	： りんご果樹課生産振興グループ
電話番号	： 017-722-1111代表 内線 5094, 5092 017-734-9492直通